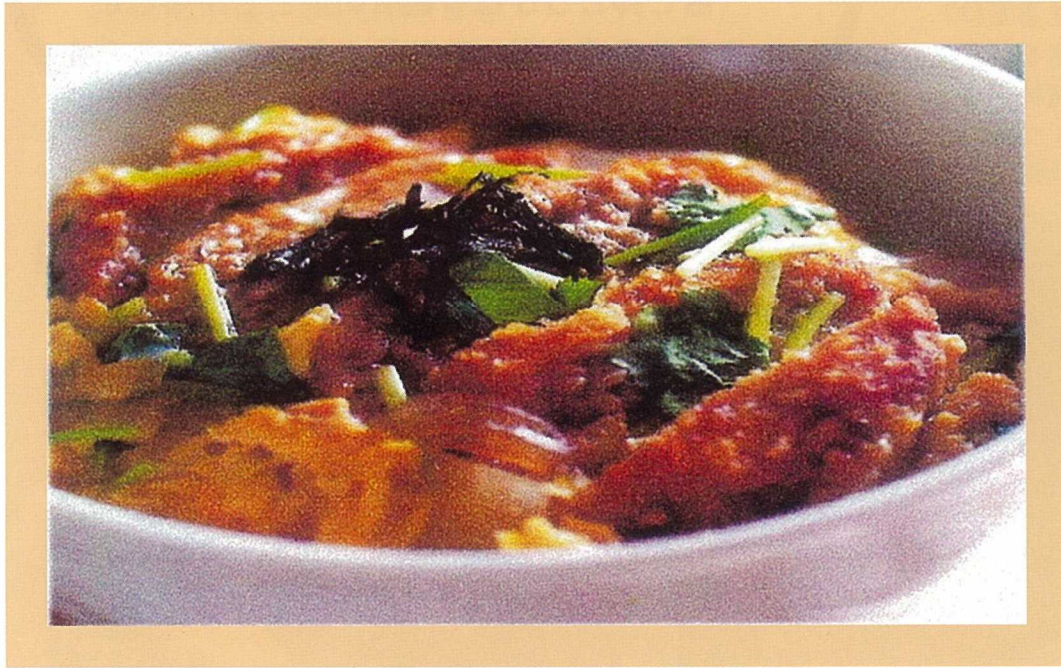




新年あけましておめでとうございます。
 去年は介護保険利用料金の改定があり、また
 来年度から『新予防給付事業』への取り組み
 が始まります。高齢者を取り巻く環境はます
 ます厳しくなりそうな予感・・・
 しかし、嘆いてばかりはいられません！頑張
 っていきましょう！！



平成17年10月16日(日)午前9時～午後1時 小禄南公民館にて

『高齢者ソフト食研修会』として講習会を行いました。

当日は管理栄養士の池城由起子先生を講師としてお招きし、高齢者の栄養的な問題や食事の重要性や「ソフト食」についてお話して頂きました。

調理実習室のある施設を日曜日に借りることが難しく、分かりにくい場所での開催となりましたが、定員30名を上回る35名の管理栄養士、調理師、ヘルパーの方々に参加されました。講師の先生が驚くほど受講者の手際が良く、調理実習もスムーズに行われ、ゆっくりと試食が出来ました。

リハビリちゃんぶる

第9号

特集記事

- 講習会報告
「高齢者ソフト食研修会」
「失語症コミュニケーション講座」
- あなたの町の元気の素
「沖縄県介護実習普及センター運営事業」
- インフォメーション

広域支援センター設置の目的

わが国は諸外国に比べられない程のスピードで高齢化が進んでいます。しかし、高齢者や障害者が住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な地域ケア、地域リハビリテーションの体制は整っていないのが現状です。そこで、国の音頭で、各県が『地域リハビリテーション支援体制整備推進事業』を五年前から進めています。沖縄県は【北部・中部・南部・宮古・八重山】の五圏域ごとに地域リハビリテーション広域支援センターが指定されています。

広域支援センターの役割

目標／高齢者や障害者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に生き生きとした生活が送れる。
 そのためには、あらゆる人々と機関・組織が協力し合うことが必要です。広域支援センターはそのための支援を行います。具体的には次の三つの活動を行います。

『直接的援助』

地域ケア・リハビリに必要なリハビリ専門職などを講師として派遣したり、研究会を開催することで関係する職員の資質向上に協力する

『ネットワークづくり』

地域の医療機関や介護サービス事業所、福祉保健所などが協力・連携し、必要なサービスを適確に提供できる体制をつくる。

『住民への働きかけ』

地域社会がこれらの問題を受け止め、支えていくことが可能となるように一般の住民に働きかける。

『失語症コミュニケーション講座』報告

講師／大浜第一病院 言語聴覚士 照屋 智美 他
 日時／平成17年11月20日(日) 9時～16時
 会場／おもとよみの杜 1Fデイサービスセンター
 参加者／看護師、介護福祉士、ケアマネージャー 12人

「失語症」という分かりにくい障害に対して、出来るだけ分かりやすく講義を行いました。講義の後は、小グループに分かれて、言語聴覚士からコミュニケーションでの具体的なアドバイスを受け、お互いに実践してもらいました。

いよいよ実践です。失語症の方たちとの会話のなかで講義や演習の成果を発揮してもらいました。参加者はもちろん、失語症の方々も楽しく有意義な時間を過ごせたことと思います。



《参加者より》
 ☆直接、失語症の方とお話することができ、より失語症について理解出来て良かったです。(介護福祉士)
 ☆この講座で失語症症状の種類や症状などを知ることが出来ました。当たり前のことですが、失語症の方と話すことに身構えていた自分が恥ずかしかったです。(相談員)
 ☆講義はとても分かりやすくて明日から仕事で使ってみようと思います。(リハビリ助手)



沖縄県介護実習普及センター運営事業 ～高齢社会は県民全体で支えよう～

沖縄県社会福祉協議会は、平成15年4月に沖縄県からの委託を受けて、介護実習・普及事業を行っております。介護実習・普及センターは、「高齢社会は県民全体で支えるもの」という考え方を基本に、介護講座や実習を通して介護の知識や介護技術の普及、更に住宅改修や最新の福祉用具を展示し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるための事業を展開しております。

介護知識・技術普及講座

- 県民高齢者疑似体験教室
- 県民介護教室
- 小・中・高生福祉用具体験教室
- 小・中・高生高齢者疑似体験教室
- 健康体操介護教室
- 広げよう介護教室 I・II・III
- 痴呆性高齢者介護教室
- 地域介護教室
- 介護実技指導者研修
- 地域介護支援リーダー養成研修

講座はどなたでも無料で受講できます。
 講座・研修・教室の申し込みは、各団体または個人で、FAX・お電話でお申込みください。



あなたの町の
 元気なひと!

沖縄県介護実習普及センター

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1 沖縄県総合福祉センター東棟1階

TEL.882-1484・1485 FAX.882-1486

『高齢者ソフト食研修会』報告

食べるって大事!

「食べる」ということは生きていく上で大きな喜びのひとつです。どんな高齢者でも「好きなものを自分の口で食べたい」という気持ちはみんな同じです。満身に食事が出来ない高齢者のために、できるだけ「安全」で「美味しい」食事を提供し、「食べたい!」という気持ちを引き出すことが大切です。



高齢者ソフト食って?

- しっかりと形がありながら噛みやすく飲み込みやすいこと
- 飲み下すことが困難でなければ、歯がない方でも食べることができる
- ただ柔らかいだけでなく、口の中でも適度にまとまる

ソフト食3つの定義

- 舌で押しつぶせる程度の硬さであること
- あごに食塊となっているような形であること
- あべりが良く、移送しやすいもの



今日の献立は
 やわらかカツ丼
 れんこんの柔らか揚げ
 ゼラチン入りご飯



いただきますあー!

研修に参加して

- 職場で勉強し試してみようと思います。もっと色々な調理法やメニューを習いたいです。(調理師)
- 嚥下や咀嚼障害のある方に対して、キザミやミキサーでの食事を提供していたが、調理に一手間かける事で、常食と変わらない形態の食事を提供出来ることを学びました。これからは食事を見る楽しさ・食べる喜びをもっと味わってもらえるように少しずつではありますが、努力していきたいです。
- 在宅ヘルパー対象の調理実習の企画も良いのではないのでしょうか。(訪問介護ヘルパー)



《池城由起子先生より》 研修会に参加してくださった皆さん、お疲れ様でした。高齢者ソフト食とはこういった形態なのかを、実習も交えてお話させていただきましたが、いかがだったでしょうか? 高齢者の方々に「おいしく・美しく・元気の出る」食事を提供するためには、いったいどうしたらいいのか・・・? 栄養士の方々の一番の悩みだと思います。「ソフト食ってこんなもんなんだ」というのを少し分かっていただいて、これからの食事づくりに少しだけでもお役に立てれば嬉しいです。いろいろなセクションの方に話を聞いていただき、私自身もいろいろな情報を得ることができ、勉強になりました。ありがとうございました。

レシピについては下記をご参考ください。
 『家庭でできる「高齢者ソフト食」レシピ 監修：黒田留美子(河出書房新社)』

『失語症』についてもっと知りたい!

～開催予定の研修会～

3/4 「第6回 失語症ライブ」

時間/午後1時受付 1時半～16時
(土) 場所/県総合福祉センター 1階ゆいホール (那覇市首里)

東京から言語聴覚士の遠藤尚志先生に来ていただき、開催している失語症ライブも今年で6回目。失語症者と家族、援助者で楽しく盛り上がる感動的なグループワークに参加してみませんか。

《参加費/無料 事前申し込み不要》

3/5 講演会「失語症者デイサービスのススメ」

講師/遠藤 尚志 (言語聴覚士)
(日) 時間/午前9時受付 9時半～12時半
場所/おもととよみの杜 2階ふれあいセンター

「失語症者のためのデイサービス」が全国に広がってきた。なぜ「失語症者のためのデイサービス」が必要なのか? どのようなデイサービスなのか? 先駆者である遠藤先生に直接お話を伺います。

《参加費/無料 事前申し込み必要》

3/21 「失語症コミュニケーション講座」

講師/松岡 広明 (大浜第一病院言語聴覚士)
(火) 時間/午前9時受付 9時半～16時
春分の日 場所/おもととよみの杜 2階ふれあいセンター

失語症者と上手にコミュニケーションをとるための勉強をします。「失語症とは」「失語症者とのコミュニケーション方法」の講義だけでなく、実際に失語症と会話する演習も行う実践的な講習会です。

《参加費/無料 事前申し込み必要》

詳しくは各施設に案内状を発送致します

上記の研修会のお問い合わせは

沖縄県南部圏域地域リハビリテーション広域支援センター

TEL.941-2028 FAX.941-2029

Information

- 失語症研修会のお知らせ
- BOOK/MOVIE レビュー



Bookレビュー

『妻を帽子とまちがえた男』

オリバー・サックス
高見 幸郎 金沢 泰子 訳
昌文社

タイトルに惹かれて手に取った。ハードカバーでかなりのボリューム、しかし読み始めると止まらなくなった。著者は映画『レナードの朝』の原作者である。神経学を学び臨床医として、偏頭痛、知能障害、脳炎後遺症の治療にあたる。記憶が二十五年前で止まってしまった船乗り、身体感覚を失った女性、そして表題の妻を帽子と間違えて被ろうとした男など、脳神経に障害を持ち不思議な症状が表れる患者たちを彼は温かい眼差しで観察していく。病気について語ることは、それは人間について語ることに過ぎない。その言葉のとおり、この本が単なる「症例集」にならずに美しいエッセイの様相を呈しているのは、彼の患者たちに対する深い愛情を感じるからなのだろう。(臣)

編集後記

各地域、地区で支えあつて生きていくように、様々な取り組みを行っていますね。今年もつと皆様の声やワンさかワンさか響かせましょう!(又)

リハビリ資源調査へのご協力ありがとうございました。ピタミンカラの表紙で冊子もリニューアル! ホームページへも掲載していますので、併せてご利用ください。皆様のご意見、ご要望も聞かせていただけると嬉しいです。(親)

今回の特集記事はいかがでしたか。多くの方が熱心に研修会や講座に参加していることを嬉しく思います。皆様も参加し、利用出来る情報の発信源であるように頑張ります。皆様の紙面への参加もよろしく願います。(祐)

発行者/沖縄県南部圏域地域
リハビリテーション
広域支援センター

発行責任者/石井 和博

住所/〒902-8571
那覇市安里1-7-3
(大浜第一病院内)

http://www.omotokai.or.jp/nanbu
tel.941-2028 fax.941-2029